

1. はじめに

(1) 『業績計画書』とは

道路行政においては、平成15年度より、「成果指向」に基づき、道路事業の成果を表す指標（アウトカム指標）を用いて、事前に数値目標を設定し、事後に評価を行い、以降の施策・事業に反映する新たな行政運営のしくみ（行政マネジメント）を導入しています。昨年度は、全国的な取組みとして、「道路渋滞による損失時間」や「道路交通における死傷事故率」など17の指標を用いて1年後の数値目標を設定し、目標達成のための施策や事業の妥当性ととも、「道路行政の業績計画書(全国版)」が公表されました。

そこで、国土交通省、広島県、広島市等の道路管理者で構成される広島県幹線道路協議会では広島県内の道路が抱える課題を、県民にわかりやすい12のアウトカム指標を用いて明らかにし、改善に向けた数値目標やそのために実施する施策や事業の内容を明らかにした広島県版の「平成16年度道路行政の業績計画書(アウトカムプラン)」を策定しました。

これは、当年度の道路施策、事業の必要性等をアウトカム指標を用いて明らかにするとともに、そのアウトカム指標を用いた現況値及び目標値を公表し、毎年度達成度を評価することで、より透明性、客観性の高い、効果的、効率的な施策、事業の展開を図るものです。また、来年度においては、今年度策定する「平成16年度 広島県道路行政の業績計画書」の評価対象となった道路施策、事業に対して、その効果をアウトカム指標を用いて分析・評価し、今後の道路施策、事業に反映すべき事柄を明らかにするため「平成16年度 広島県道路行政の達成度報告書」を策定・公表する予定となっています。

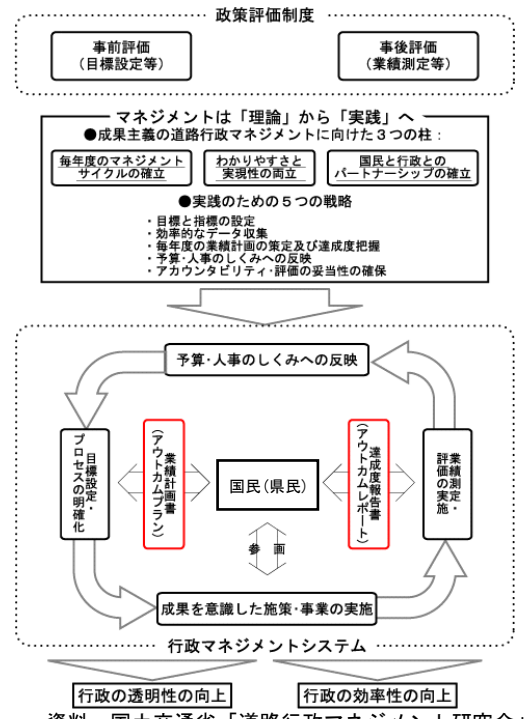
なお、広島県の道路管理者が行う道路施策・事業については、平成19年度を中期目標^{注)}とし、毎年度、『広島県道路行政の業績計画書』を作成するとともに、『広島県道路行政の達成度報告書』による評価を、継続的に行う予定です。

■アウトカム指標とは

これまでは、事業を実施することによって直接発生した施設物・事業量（アウトプット）を表す指標を用いて施策や事業の評価を行うことが一般的でした。

例えば、「経済活力の増進」という施策を構成する「路線の整備」という事業があるとすれば、「路線を〇年までに〇km 整備する」というのがアウトプットであり、その成果として「目的地までの時間が短縮する」というのがアウトカムです。このように、施策や事業の評価をわかりやすく説明するものがアウトカム指標です。

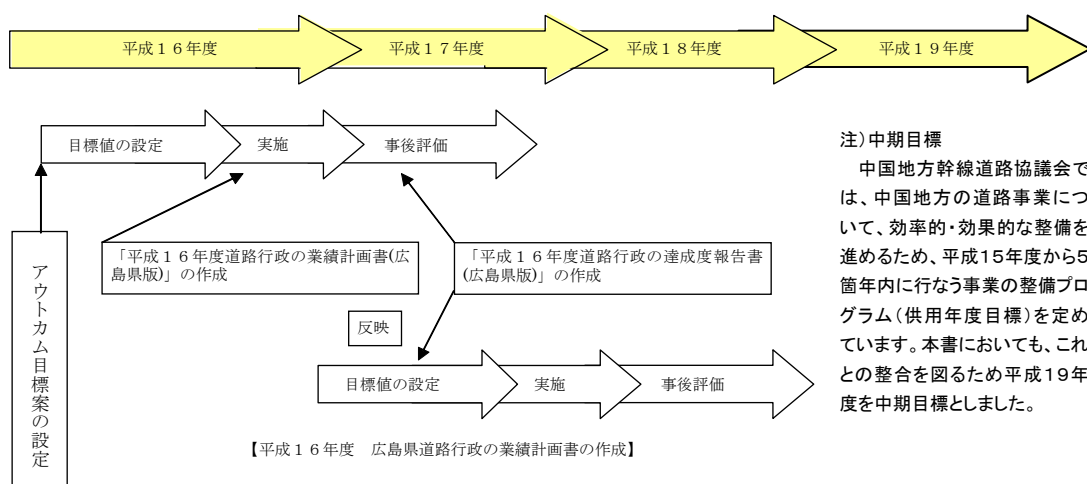
■新たな道路行政マネジメントのイメージ



資料：国土交通省「道路行政マネジメント研究会」

ホームページ（平成15年度）

【新たな行政マネジメントの流れ（平成16年度を例に）】



注) 中期目標
 中国地方幹線道路協議会では、中国地方の道路事業について、効率的・効果的な整備を進めるため、平成15年度から5箇年に行なう事業の整備プログラム(供用年度目標)を定めています。本書においても、これとの整合を図るため平成19年度を中期目標としました。

【平成16年度 広島県道路行政の業績計画書の作成】

(2) 『平成16年度 広島県道路行政の業績計画書』の構成

『平成16年度 広島県道路行政の業績計画書』の策定にあたっては、地域の特性、独自の課題等を踏まえた上で、地域のニーズに合致し、生活実感にあったアウトカム指標を設定する必要があります。

そのため、全国版の『道路行政の業績計画書』、『中国地方の道づくりビジョン』、『中国地方の道路の整備に関するプログラム』、『広島県新道路整備計画』及び『新たな交通ビジョン』に基づき、そのなかから、現時点で県民にわかりやすい指標として、いくつかの指標をアウトカム指標として設定しました。

また、事業の選定にあたっては、個々の課題について現状を詳細に把握したうえで、なぜそのような課題が生じているか、極力データなどを用いて客観的に分析し、適切な対策を講じるよう努めています。

また、今回選定した指標以外の新たな指標の検討や、必要に応じて修正を図るなど、よりわかりやすい業績計画書としていきます。

■平成16年度 広島県道路行政の業績計画書の流れ

